



**継承の危機にある「海の食文化」を
楽しみながら学べる
絵本の製作及び周知啓発
事業報告書**



一般社団法人 日本スローフード協会

事業概要

<取り組みたい課題>

沿岸漁業の発達した国、日本。漁村での食文化は各地の気候や風土と合わさって、独特な食文化を形成している。伝統的な水産業は、漁業者たちによる保全や共有の知恵によって守り受け継がれてきた。また、保存・加工技術が、地域の食文化を発展させてきた経緯もある。

しかしながら、近年、漁業従事者の高齢化に伴い、伝統的な食文化の継承が厳しい状況にある。また、急激な気候変動は海の生態系にも影響を及ぼし、地域固有の海産資源が減少したり、中には消滅の危機に瀕する種も存在する。以上の課題を解決するために、今、伝統的な水産物に関する知恵や知識を継承する人材の育成や地域コミュニティの醸成が急務である。

また、伝統的な海の食文化の危機に関する情報発信もされておらず、各地域の子どもたちが学ぶ機会も著しく乏しいため、海に関する食の未来を支える意識の更なる低下が見込まれる。

<原因>

- ・日本各地の漁村の高齢化により、伝統的な水産物・水産業に関する知識・知恵の継承が危ぶまれている
- ・気候変動や海洋汚染等の影響により、地域固有の水産物を保全する生態系が崩れ始めている
- ・海の生態系／海の食文化に関する教育手法が確立されていない
- ・子どもたちが海の食文化に接する機会が著しく乏しく、文化継承の人材不足が懸念されている。

<解決策>

- ・継承の危機にある海の食文化に関する地域課題の共有と情報発信のため、誰もがわかりやすい媒体として「絵本」を製作する。
- ・絵本と食材を用いた教育プログラム／体験プログラムを開発し、地域の小中学校での授業や、親子向け食育ワークショップ等を実施することで、子どもたちに海の食文化を伝えていく。また地域コミュニティ・子育て世帯への普及啓発も目指す。
- ・絵本の製作やワークショップの実施プロセスにおいて、漁業従事者や食の専門家のみならず、多様な地域コミュニティの担い手を巻き込むことで、知識・知恵の共有と仲間づくり・ネットワークづくりを行う。
- ・食文化継承に関する課題を解決するためのプラットフォームを形成する。国内外の食文化保全に関する実践例やノウハウを蓄積し、研究会や情報発信を行う。また、Slow Food Internationalが規定する「プレシディオ（味の砦）」（継承の危機にある食文化の保全活動）への登録を目指し、生産者と共に商品開発や人材育成に務める。



1. 絵本制作

4つの地域にて、4種の海に関する食材を題材とした、4種の絵本を制作した。

題材および絵本のタイトル、および作絵担当者は下記のとおり。



①秋田県男鹿市・八峰町を中心に生産される「ハタハタのしょっつる」を題材とした「ハタハタ、け」(絵:永沢碧衣)

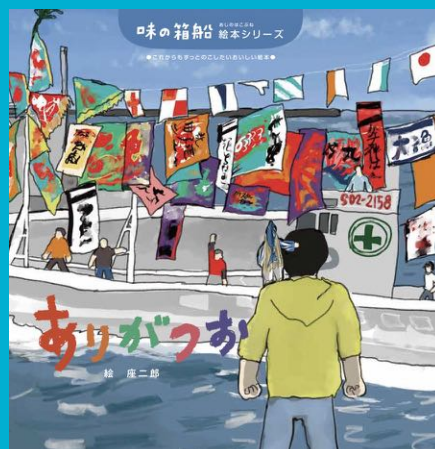
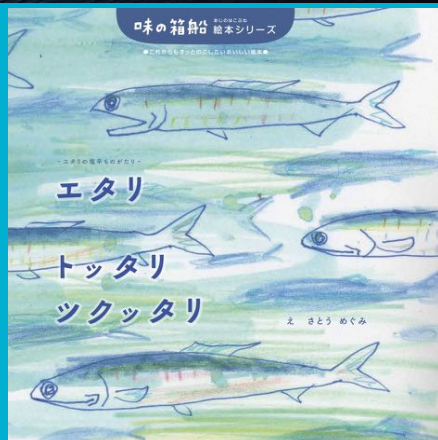
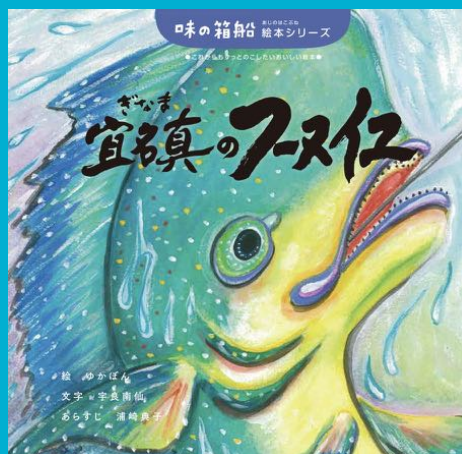
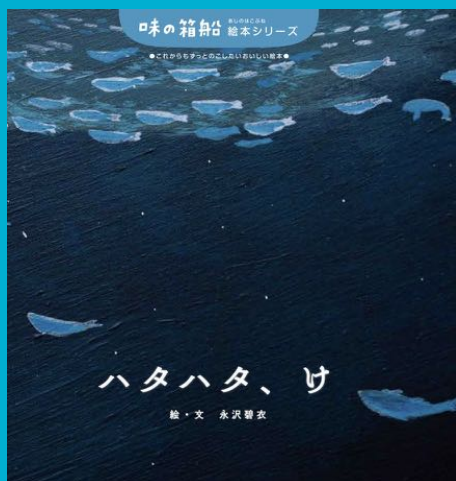
②静岡県西伊豆にて生産される「しおかつお」を題材とした「ありがとう」(絵:座二郎)

③長崎県雲仙市を中心に生産される「エタリの塩辛」を題材とした「エタリトツタリ ツクツタリ」(絵:佐藤恵)

④沖縄県国頭村宜名真にて生産される「宜名真のフヌイユ」を題材とした「宜名真のフヌイユ」(絵:ゆかぼん)

※沖縄の題材は、申請時の「ンヌジ伝統漁(うるま市)」から変更

絵本は当初予定では300部ずつの印刷を予定していたが、地元からの要望やクラウドファンディングの成功により、部数を増やし、1000部ずつの印刷となった。



1. 絵本制作

各地の多様なステークホルダーを巻き込んだ絵本制作

今回の絵本を一緒につくっている生産者さん / 漁師さん



諸井 敏造
諸井 秀樹さん



秋田県八峰町
ひより会



カネサ錠節商店
芹沢 安久さん



エタリの塩辛愛好会
竹下 敦子さん



沖縄県国頭村
宜名 真区の 賢さん

アーティスト・作家のみなさん



永沢 麗衣さん (絵画作家)
「しょっつる」担当



座 二郎さん (建築家 / 漫画家)
「瀬かつお」担当



佐藤 恵さん (陶芸作家 / 画家)
「エタリの塩辛」担当



ゆかぼんさん
(沖縄県北端のローカルファッションブランド
ヤンバルジュエクション 店主)
「フーティユ」担当

各地の地域コーディネーター



秋田 丑田 香澄さん
(BABAME BASE)



静岡 中島 繁さん
(三角屋水産)



長崎 黒川 陽子さん
(料理研究家)



沖縄 山田 沙紀さん
(名国博物館 学芸員)

Slow Food Nippon

運営 / ファシリテーション



渡邊 めぐみ



熊倉 聖子



北林 大



濱部 玲美



橋本 佳乃子
(出版社さりげなく)

編集



1. 絵本制作

<制作の過程>

制作にあたっては、WEBミーティング・現地訪問を通して取材・対話を重ねた。



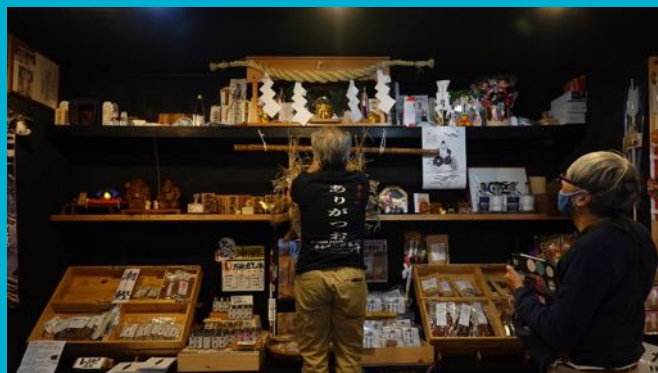
国頭村宜名真集落住民に聞き取り



フーヌイユの取材



長崎にて作家・編集チーム打ち合わせ



西伊豆・カネサ鯉節商店にてしおかつお取材



絵本内容打ち合わせ



「ハタハタ、け」原画制作

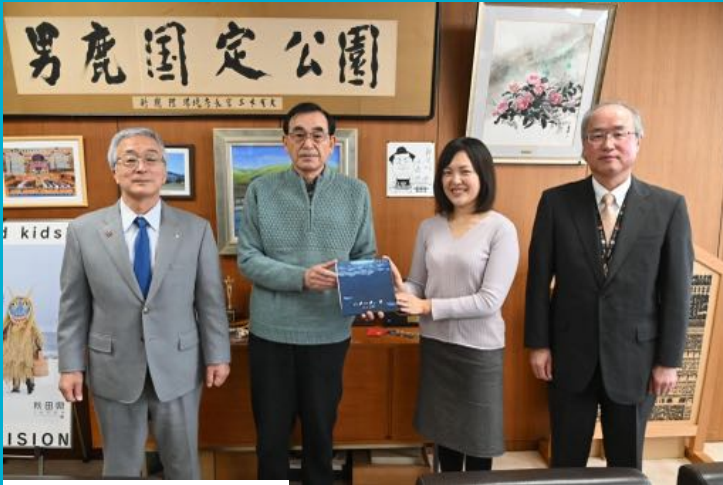


男鹿・諸井醸造へ取材訪問

2. 絵本の配布及び教育プログラムの実施

<絵本の配布および販売>

完成した絵本は、関係する地域の自治体の教育委員会等を通して、寄贈を行った。



男鹿市長・教育長へ寄贈



雲仙市長へ寄贈



五城目町教育長へ寄贈



国頭村教育長へ寄贈



くにながみ児童くらぶへ寄贈



西伊豆町長へ寄贈

2. 絵本の配布及び教育プログラムの実施

<絵本の配布および販売>

寄贈先詳細

無料にて総計600冊(各150冊)寄贈

<長崎県> 150冊

- ・雲仙市教育委員会を通して66冊(小学校 17校×2冊、図書館 1ヶ所×4冊、図書室 6ヶ所×2冊、役所・支所 8ヶ所×2冊)
- ・県内他自治体の図書館及び図書室 16ヶ所×2冊
- ・長崎県立長崎図書館 4冊 2ヶ所×2冊
- ・南島原教育委員会 16冊(配布図書館 8ヶ所×2冊)
- ・新上五島町教育委員会10冊(図書館・児童館等5ヶ所)
- ・雲仙市お話ボランティアグループ 6冊(3ヶ所×2冊)
- ・ながさき味覚教室 1冊
- ・長崎ペンギン水族館 3冊
- ・じゅんしん子供図書館 2冊
- ・エタリの塩辛愛好会 5冊
- ・長崎県水産試験場 2冊
- ・星座保育園(学童保育・星座クラブ) 2冊

<静岡県> 150冊

西伊豆町教育委員会へ150冊寄贈、下記へ配布

- ・認定こども園:30冊
- ・小中学校:60冊
- ・町長、副町長、西伊豆町役場:5冊
- ・町内図書館:3冊
- ・しおかつお研究会:15冊(静岡県庁へ県知事他) ※他、残数は県内他地域の図書館へ寄贈予定

<秋田県> 150冊

- ・男鹿市 小学校および中学校 2校×50冊
- ・五城目町 小学校および中学校 2校×12冊
- ・八峰町 小学校および中学校 2校×18冊
- ・横手市 市教育委員会、図書館へ合計20冊
- ・秋田国際教養大学 中嶋記念図書館へ2冊

<沖縄県> 150冊 ※題材が変更になったため自治体も変更

- ・国頭村教育委員会を通して59冊(村内小学校6校、村内中学校6校、村立こども園6ヶ所、村立図書館2ヶ所)
- ・宜名真区 5冊
- ・辺土名高校 2冊
- ・保育所 sosu 6冊
- ・くにがみ児童クラブ 5冊
- ・国頭村給食調理場2冊
- ・村内公民館20ヶ所×2冊ずつ
- ・名護博物館 2冊
- ・県立図書館 2冊
- ・沖縄県教育庁 2冊
- ・国頭漁協 2冊



2. 絵本の配布及び教育プログラムの実施

＜絵本の配布および販売＞

クラウドファンディング

絵本の制作過程から発信できるよう2021年12月28日～2022年2月23日の約3ヶ月の間、[クラウドファンディング](#)を実施した。制作に至った背景や思いを合わせて発信することで多くの共感を得ることができ、250万円に設定していた目標額を上回る、2,974,946円が集まった。支援者の数も355名にのぼり、完成すると同時に、全国の関係する地域や寄贈先のみではなく、多様な人たちへ絵本を届けることができた。

クラウドファンディング URL (CAMPFIRE) <https://camp-fire.jp/projects/view/537496>

地球上から消えてしまうかもしれない日本の伝統食材を伝え残すための絵本をつくりたい

目標金額は2,500,000JPY

2,974,946JPY

355人

終了

私たちスローフードは、このまま放っておいたら消滅してしまうかもしれない伝統食材を記録するための『味の箱船』という取り組みをしています。今回、味の箱船に登録されている

応援メッセージ(一部)

- sobashubou_hizashi** - 1件の支援者です
2022/02/22 10:47
神奈川県藤沢市では酒房陽志というお店を営んでいます。潮腥、エタリ塩辛なども扱っています。「食」の学校という食の情報のポータルサイト運営も行い、スローフードや伝統食、発酵食、保存食などを紹介しています。日本の食文化の継承と発展を願いながら活動しています。この様な取り組みが大きな流れになる事を楽しみにしています！応援しています！頑張ってください！微力ながら参加させて頂きました！閉じる
- Midori Dambata** - 18件の支援者です
2022/02/22 11:37
背景を知った上で食べたらおいしさ倍増ですね。絵本も大好きです。子どもたちにも触れてもらって、あるものを大切に作る気持ち、残す活動があることは伝えていきたいと思っています。
- linos** - 19件の支援者です
2022/02/21 19:23
日本の水産加工文化と次世代の活動に期待しています。
- guest01f8120ea5** - 1件の支援者です
2022/02/21 21:52
とても大切に無くしたくない思いに共感しました。美味しいものの味わいという嗜好が均一化しつつあると感じる昨年、本当に瀬戸際だと思えます。応援しています！頑張ってください！
- Eri Dixon** - 5件の支援者です
2022/02/19 16:42
なくなってしまったものを復活させるのはとても難しい！なので、一つでも多く日本の伝統食材を繋いでいるように応援しています。

- nana0427** - 1件の支援者です
2022/02/15 12:59
子どもに伝えるためのツールとして、絵本はとても魅力的なものだと思います！次世代に繋がっていきますように。応援しています！！
- kamichia** - 1件の支援者です
2022/02/14 21:32
NHKのニュースで、絵本の存在を知りました。えたり塩辛も食べたことなので、気になりました。楽しみです。その土地の他の特産品と一緒に食べられるのが良いですね。甥っ子と一緒に、えたりを勉強しながら食べたいと思います。閉じる
- guest62c83632b8** - 3件の支援者です
2022/02/12 18:57
子どもの頃に読んだ絵本のストーリーはずっと心に残るものだと思います。絵本を読んだ子どもたちが大人になってから、生産地に足を運ぶきっかけになり、新しい土地、味、人との出会いが増えそうですね！そんな経験は、人生をより豊かにしてくれると思います。絵本、娘に読み聞かせるのが楽しみです。応援しています！閉じる
- matsusake555** - 2件の支援者です
2022/02/22 07:18
日本の伝統料理、地方料理が大好きなのでこのようなプロジェクトを立ち上げて頂けてとても嬉しく感じています。ありがとうございます。素晴らしい活動、応援しています！
- a374ccc4c1a4** - 1件の支援者です
2022/02/14 01:11
Go Megumi! This project is wonderful to me as I personally believe that the love and tradition that we're trying to pass onto our children is best translated through the passing of our love for our traditional food. All the best to the team 閉じる

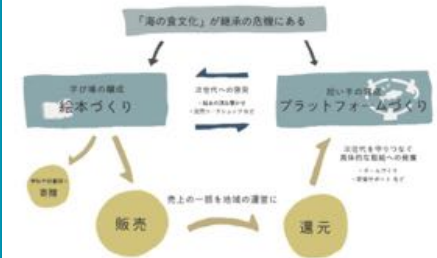
助成についての記載

資金の使いみちについて

この絵本プロジェクトは、日本財団の助成を受けています。



とはいえ、助成金だけで必要な費用を全て賄うことはできません。絵本制作における印刷・製本・編集・校正費用において、今回のクラウドファンディングでご協力をお願いいたします。また、クラウドファンディングでのご支援が多ければ多いほど、「初版」といわれる最初の印刷部数を増やすことができます。印刷部数が増えれば増えるほど、絵本として販売されていくときの収入が大きくなり、地域での食材の保護継承や次なる活動へ還元されていきます。



例えば、絵本を活用した食育ワークショップをやるうとか、商品パッケージをもっと魅力的にリニューアルしようとか、地域ごとに必要なことや優先順位は異なると思いますが、そういった、食材を守っていくための具体的な取り組みが継続できるよう、絵本の収益をあてていきたいと考えています。

また、今回の4つの絵本だけでなく、味の箱船食材に関する絵本を今後制作しているよう、資金源を作っていくという挑戦もしていきます。

- 資金使途
 - ・出版する絵本の印刷・製本・編集・校正費用
 - ・リターン経費・送料
 - ・CAMPFIRE手数料

2. 絵本の配布及び教育プログラムの実施

<教育プログラム>

新型コロナウイルスの影響で、学校でワークショップを行うハードルが非常に高かった中でも、2地域の学校にてワークショップを開催することができた。また、比較的柔軟な対応が可能な、民間の子どもが集う施設でのワークショップや、オンラインワークショップへの移行など、工夫をして実施した。また、各地域のみでなく、神戸での絵本お披露目の場でも教育プログラムとしてワークショップを開催し、地域外の子どもたちが絵本をどのように受け止め、どんな学びを得るのかの手応えも測ることができた。

ハタハタのしょつつる関連ワークショップの様子



2. 絵本の配布及び教育プログラムの実施

<教育プログラム>

しおかつお関連ワークショップの様子



2. 絵本の配布及び教育プログラムの実施

<教育プログラム>

エタリの塩辛関連ワークショップの様子



2. 絵本の配布及び教育プログラムの実施

<教育プログラム>

フーヌイユ関連ワークショップの様子



2. 絵本の配布及び教育プログラムの実施

<教育プログラム>

実施ワークショップ一覧

<秋田>

(1) 2月17日 男鹿市立船川第一小で食育ワークショップ(23名)

絵本の読み聞かせ・生産者から食材紹介・給食で「たら汁(しょつつる味)」の提供。

(2) 2月26-27日 神戸でのシンポジウムにてハタハタ アート&読み聞かせワークショップ(総計 52名)

絵本の読み聞かせ、しょつつるの試食、原画の展示、子どもたちが自由に画材を使って魚を描き漁師へのメッセージを書くアートワークショップ。

<静岡>

(1) 1月27日 西伊豆賀茂小学校で食育ワークショップ(全児童対象 46名)

児童は教室・講師はオンラインの形式で開催。画面共有をして絵本の読み聞かせ、潮かつおについての話、給食で「潮かつおうどん」の提供。

(2) 2月22日 西伊豆・仁科認定こども園にて食育ワークショップ(児童 15名)

絵本の読み聞かせ、潮かつおについての話

(3) 2月27日 神戸のシンポジウムにて 潮かつおと鰹節のワークショップ(参加 23名)

絵本の読み聞かせ、潮かつおや鰹節ができる工程についてレクチャー、試食、鰹節削り体験

<長崎>

(1) 2月18日 エタリのうた・読み聞かせワークショップ(参加 14名)

絵本の読み聞かせ、エタリの歌と踊りをみんなで作るワークショップ

(2) 2月26日 神戸のシンポジウムにて エタリの塩辛トーストづくりワークショップ(参加 14名)

絵本の読み聞かせ、エタリについての話、クイズ

(3) 2月27日 神戸のシンポジウムにて にぼし(=エタリの塩辛の減量であるカタクチイワシ)の解剖ワークショップ(参加 20名)

エタリの解剖、五感で感じたことシェア、色々なにぼしの出汁のテイasting

<沖縄>

(1) 11月10日 宜名真公民館(8名)

絵本の素案披露、フーヌイユについての話、フーヌイユ調理ワークショップ(天ぷら、干物)

(2) 2月13日 くんじゃん山学校(オンライン実施に切り替え)(3名)

絵本の読み聞かせ、フーヌイユについての話、クイズ

(3) 2月26日 神戸のシンポジウムにて(20名)

絵本の読み聞かせ、フーヌイユについての話、クイズ、ガンシナーづくり

(4) 2月27日 神戸のシンポジウムにて(24名)

絵本の読み聞かせ、フーヌイユについての話、クイズ、ガンシナーづくり

(5) 3月12日 くにがみ児童クラブ(23名)

絵本の読み聞かせ、フーヌイユについての話、フーヌイユ調理ワークショップ(カレー、ふりかけ)



3. 継承のためのプラットフォーム構築

<4地域合同研究会の開催>

絵本の制作を行う4地域の合同での研究会およびワークショップをオンラインで2回、オフラインで1回実施した。それぞれが別個で絵本づくりを進めるだけでなく、絵本の制作の状況、互いの地域の現状、今おこなっている取り組み等を共有し合う場を複数回設けたことで、学びや生産者の意欲向上に寄与した。



<ネットワーク形成>

4地域の絵本づくりに携わった水産関係者のほか、スローフードのネットワークにいるその他の地域の水産関係者との横断的ネットワークの構築のための会議を2回、開催した。



3. 継承のためのプラットフォーム構築

<インターンシップの開催>

各地で、絵本制作～シンポジウムまでの過程で、インターンシップとして多様な次世代の若者との交流の場を設けた。直接的な担い手候補から広範な関係人口まで、多様なネットワークが形成された。



しおかつお

- ・大学生を対象に加工体験インターンシップ
- ・神戸のシンポジウムにて大学生と交流



エタリの塩辛

- ・大学生を対象に漁師体験インターンシップ
- ・神戸のシンポジウムにて大学生と交流



フーヌイユ

- ・若手漁師を対象にパヤオ(浮漁礁)・加工に関する研修



ハタハタのしょつつる

- ・秋田県五城目の魚の食文化の発信活動を行っている若手活動家が神戸のシンポジウムに参加
- ・秋田国際教養大学の学生が諸井醸造にてインターンシップ

4. シンポジウム開催

完成した絵本のお披露目、関係者のネットワーキング、また、一般来場者に向けて海の食文化、水産資源、サステナビリティについてを大人も子どもも様々な形で学び楽しむことができるシンポジウムを、2022年2月26,26日に神戸にて開催した。

絵本のお披露目



4. シンポジウム開催

原画展示・動画上映



絵本プロジェクト関係者による対話

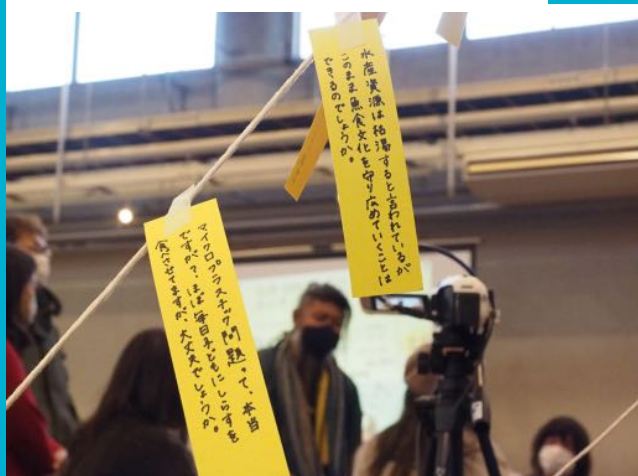


4. シンポジウム開催

海や水産に関するカンファレンス



事前や会場で募った質問は会場中央のオブジェに



キッズスペースを設けて親子連れも参加しやすく工夫



全国からの出店



4. シンポジウム開催

子ども向けのクイズイベント、まなべるあそべる展示、ワークショップ、読み聞かせ(2. 教育プログラムの項参照)等



しらない魚を食べることも大切

日本の国土面積は、世界で第62位。でも、日本の海の広さ(200海里水域※)は世界でも6位です。なんと、日本の国土の約12倍もの広さなのです。そんな日本の海には、約3700種類の魚がいるといわれていますが、私たちが日常的に食べているのは、そのうちのごくわずかです。なじみのない魚を食べることは海の生き物たちのバランスをとることもつながります。

あなたは、魚の名前をどれだけ知っていますか？
釣り上げて、観察してみましょう。

※200海里水域とは？
日本の沿岸から200海里(約370km)内の海は、日本が専ら漁業資源をとったり管理する権利と義務を持っています。他国も自国沿岸から200海里内の海には同様の権利と義務が認められており、国際的なルールです。

●海の広さのこと

●海の広さを他の国と比較

順位	国	海の広さ	陸地の広さ
1	アメリカ	762万km ²	943万km ²
2	カナダ	701万km ²	770万km ²
3	ロシア	641万km ²	170万km ²
4	フランス	483万km ²	27万km ²
5	中国	479万km ²	970万km ²
6	日本	467万km ²	37万km ²



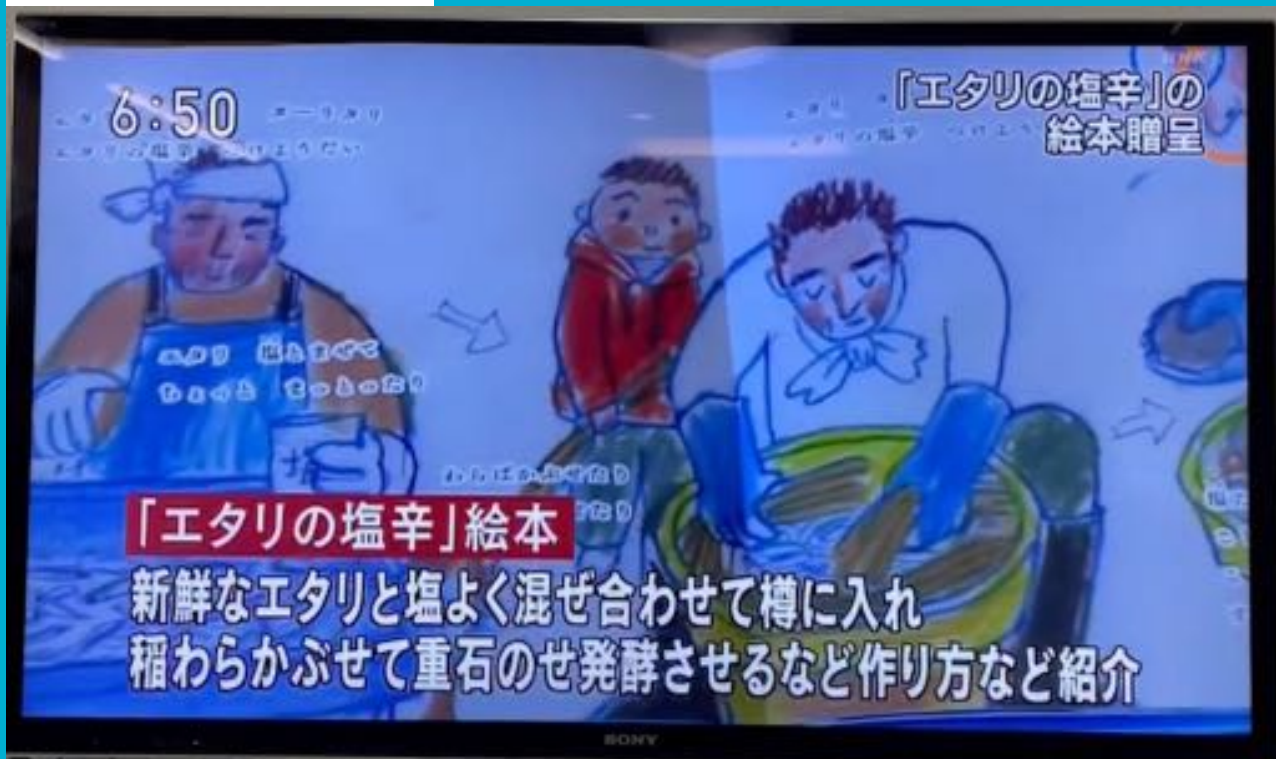
メディア掲載実績

絵本の制作・寄贈関連

NHK静岡 ニュース(2022年2月18日)



NHK長崎ニュース(2022年2月14日)



メディア掲載実績

クラウドファンディング関連

ウェブメディア「IDEAS FOR GOOD」(2022年1月25日)

<https://ideasforgood.jp/2022/01/25/slow-food/>



●ラジオ出演

①J-WAVE「Allbirds MORNING INSIGHT」
8:35ごろ～

<https://www.j-wave.co.jp/original/tmr/insight/>

②Japan FM Network「OH!HAPPY STYLE」10:20ごろ～

<https://audee.jp/program/show/27266>

ウェブメディア「サステナブルスイッチ」(2022年1月28日)

https://sustainable-switch.jp/slowfood_interview2-220128/



ウェブメディア「WorkMaster」(2021年12月28日)

<https://www.work-master.net/2021240675>



メディア掲載実績

シンポジウム関連



PR TIMES

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000013.000048258.html>

- ・プレビュー数: 2,044
- ・転載サイト数: 23



トレンドニュースサイト STRAIGHT PRESS【ストレートプレス】ストブレ

https://straightpress.jp/company_news/detail?pr=0000013.000048258



VOIX SDGs

<https://voix.jp/sdgs/sdgs/22940/>

メディア掲載実績

シンポジウム関連



子どもとお出かけ情報サイト「いこーよ」

<https://iko-yo.net/events/300873>

EAT LOCAL KOBE 季刊誌



神戸市 広報誌 おさんぽKOBE

地域ならではの「食」について考えるイベント
WE FEED THE PLANET

料理人や生産者、食品を販売する事業者など、全国から集まる食のプロフェッショナルとの交流を楽しみながら、地産地消について考えるイベントを開催します。神戸だけでなく、全国各地の個性豊かな食文化を体験したり、食にまつわるトークイベントで興味深い話を聞いたりできます。

日時 2月26日(土)・27日(日) 10:00~17:00
 場所 デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) | 料金 一部有料

■ みんなでつくる円卓会議
 食の分野で活躍するさまざまな立場の人と対話する参加型のトークイベント。海や土などをテーマに、食を育む自然や生き物のことを考え学ぶことができます。

■ 生産者や料理人によるマーケット
 地球環境にも配慮する生産者や料理人が出店。作り手と話しながら、野菜や果物、酒やコーヒー、調味料に加え、郷土料理などを買ったり味わったりできます。

詳細は「WE FEED THE PLANET 2022」検索
 [関] 市事業-イベント案内センター ☎333-3372 | F.333-3314

ソトコトNEWS

https://sotokotonews.com/SDGs_news/1653



メディア掲載実績

その他掲載メディア

・朝日新聞 兵庫地域欄 2022年2月17日 朝刊

・神戸経済新聞

<https://kobe.keizai.biz/release/111191/>

・WEBをメディア スキマナ

<https://suki-mana.com/seminars/detail/b3a5d70e-c658-4406-8adc-cef94b0af5f4/>

・CREA

<https://crea.bunshun.jp/ud/pressrelease/620f47e17765616a03060000>

・ニッポンふるさとプレス

<https://www.furusato-s.co.jp/press/2021/12/28/%E5%9C%B0%E7%90%83%E4%B8%8A%E3%81%8B%E3%82%89%E6%B6%88%E3%81%88%E3%81%A6%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%86%E3%81%8B%E3%82%82%E3%81%97%E3%82%8C%E3%81%AA%E3%81%84%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%AE%E4%BC%9D%E7%B5%B1/>

・ALL about

<https://news.allabout.co.jp/articles/p/000000013.000048258/>

・東灘ジャーナル

<https://higashinada-journal.com/event/65466/>

・Kiss Press:

<https://kisspress.jp/articles/34624/>

・神戸ジャーナル:

<https://kobe-journal.com/archives/8263859974.html>

・anna:

<https://anna-media.jp/archives/547859>

他

